

他者との相互作用に重点を置いた キャリア教育科目のデザインに関する研究

Study on Design of Career Education Courses with an Emphasis on Interaction between Learners

桑原 千幸*

Chiyuki KUWAHARA*

*京都文教短期大学

*Kyoto Bunkyo Junior College

Email: ckuwahara@po.kbu.ac.jp

あらまし：本研究の目的は、デザイン研究アプローチにより大学生が他者との相互作用を通じて主体的なキャリア形成能力を高めるキャリア教育科目の授業を設計することである。短期大学の初年次キャリア教育科目における Moodle を用いた相互評価学習の試行から、課題投稿者の氏名を表示するほうが、他者から評価を受けるやりがいを感じていることがわかった。そこで、他者との相互作用をさらに促すように授業デザインを改善したところ、相互評価学習を今後もやってみたいと感じる満足感について一定の効果が得られたものの、評価割り当てや評価対象課題表示方法の工夫、相互コメントを促す足場かけ等について、改善の必要性が浮かび上がった。

キーワード：キャリア教育、キャリア構築理論、相互評価学習、Moodle、デザイン研究

1. はじめに

近年のキャリア発達理論においては、構成主義的学習観を背景とした Savickas のキャリア構築理論のように、個人の主観的な意味づけや相互作用の重要性が指摘されているが、他者との相互作用により主体的にキャリアを構築する具体的な授業方法は明らかではない。筆者はこれまで、短期大学のキャリア教育科目において、Moodle を用いた相互評価学習が進路選択自己効力の向上に有効であることを明らかにした⁽¹⁾。また、多様な学生が受講する非同期 e ラーニング科目で同様の実践を行い、授業全体を通じた相互コメント学習が学びやキャリア意識の向上に役立ったという意見が得られた⁽²⁾。

本研究では、他者との相互作用を通じたキャリア構築を促進する学習方法の要件を明らかにするため、理論的枠組をもとに学習デザインの定期的な改善サイクルを実現することでよりよい教育実践を生み出すデザイン研究アプローチ (Design-based Approach) に基づき、授業設計を改善しその効果を検討する。

2. 方法

2.1 対象

私立短期大学において、2018 年度 1 年次選択科目として開講されたキャリア教育科目の前期 2 クラス、後期 1 クラスを対象とした。受講者数は、前期 75 名、後期 17 名である。

2.2 授業設計の概要

短期大学初年次にキャリア意識と進路選択自己効力を高めることを目的として、キャリアプラン作成という進路選択課題を中心とした授業を設計した。第 1 回～10 回は、社会状況についての知識習得や自

己理解に関わる講義・演習を行い、第 11 回～15 回でキャリアプラン作成・発表と相互評価学習を行う。

2.3 前期のデザイン

第 1 回～10 回のうち 2 回の講義において、リフレクションを Moodle に投稿し、次回の授業で他の学習者の課題を閲覧・評価する相互評価学習を行った。一方はデータベースモジュールに匿名で投稿し、匿名で評価を行った(以下、前期匿名群)。もう一方は、フォーラムモジュールに各人が氏名を表示して 1 件のディスカッションを投稿し、匿名で評価した(以下、前期実名群)。評価対象は、両群とも「お互い様効果」を考慮せず、一人あたり 5～7 件をランダムに割り当てた。評価尺度は、「いいね／なるほど／読んだよ」の 3 段階でコンボボックスから選択した。

2.4 後期のデザイン

前期実践の検証結果から、匿名の題を相互評価するよりも氏名を表示した課題に対する相互評価のほうが、他者から評価を受けることにやりがいを感じることがわかった⁽³⁾。そこで、後期の相互評価学習でも投稿者の氏名を表示した 2 回の相互評価学習を行い、さらに他者との相互作用を促すために、他の学習者のフォーラム投稿 1 件に実名で返信を行う相互コメント学習を 1 回の講義で実施した。学習方法の違いを表 1 に示す。

表 1 相互評価学習方法の比較

	前期匿名群	前期実名群	後期群
モジュール	データベース	フォーラム	フォーラム
投稿者	匿名	実名	実名
評価者	匿名	匿名	3 段階評価は匿名／相互コメントは実名

2.5 調査方法

相互評価学習終了後に Google フォームで調査を行った。有効回答数は前期匿名群 33 件、前期実名群 38 件、後期群 15 件の計 86 件であった。相互評価学習に対する動機づけについて ARCS モデルを参考に 12 項目 (5 件法) を作成し、「まったくそう思わない」を 1 点、「そう思う」を 5 点として得点化した。また、システムの使いやすさ (5 件法)、課題の投稿者氏名表示、任意の自由記述についても回答を求めた。

3. 結果と考察

3.1 相互評価学習課題に対する動機づけ

他の学生の意見を読むこと、他の学生から評価されることに対する動機づけについて、一要因の分散分析および多重比較を行った結果を表 2 に示す。「評価されることが自分の課題の内容に影響を与えた」については後期群が前期実名群よりも高かった ($F(2, 83)=2.367, p<.05$)。後期群の自由記述では「ほかの人が何をどう考えていたのか分かって面白かった。自分の考えにも少なからず影響した。」といった意見が見られた。また、「今後もやってみたい」という設問については、「意見を読むこと」「評価されること」とともに後期群が前期の 2 群よりも平均値が有意に高かった (読むこと: $F(2, 83)=2.367$, 評価されること: $F(2, 83)=4.267$, ともに $p<.01$)。他者とのやり取りを促すように相互評価学習方法を改善したことにより、相互評価に面白さややりがいを感じ、またやってみたいと思わせる点で一定の効果が得られたのではないと思われる。

3.2 システムの使いやすさ

システムの使いやすさについて 5 段階で評価した結果の平均値は、前期匿名群 3.91 ($SD 0.15$)、前期実名群が 3.34 ($SD 0.21$)、後期群が 4.20 ($SD 0.24$) であり、分散分析の結果、前期実名群が他の 2 群よりも有意に低かった ($F(2, 83)=4.360, p<.05$)。同じフォーラムモジュールを使用した前期実名群と後期群で

差があるのは、受講人数の違いが投稿の一覧性に影響した可能性があり、評価割り当てや表示方法の工夫による学習方法の改善が必要であると考えられる。

3.3 評価の実名/匿名について

評価対象となる課題の投稿者氏名の表示/非表示についての好みを尋ねた結果を表 3 に示す。

表 3 投稿者氏名の表示についての集計結果

	前期匿名群	前期実名群	後期群
匿名	27	14	1
氏名を表示	0	3	1
どちらでもよい	6	21	13

3.4 相互コメント

後期のデザインでは、2 回の相互評価学習に続いて、他者の投稿に返信する相互コメント学習を 1 回実施した。受講生はあまり抵抗なくコメント投稿をしているように見られたが、具体的なコメント内容を検討すると、相手の意見をもとに建設的に自分の意見を述べているコメントもあるものの、「私もそう思いました。」といった単純な一言コメントも散見され、コメントの質には差が見られた。今後は、他者との相互作用を通じたキャリア構築を促進するために、意見表明やディスカッションの能力向上も視野に入れ、相互コメントのルール共有やコメント例の提示といった足場かけを検討していきたい。

本研究は、科学研究費補助金若手研究 (課題番号: 19K14336) の補助を受けたものである。

参考文献

- (1) 桑原千幸, 喜多敏博, 合田美子, 根本淳子, 鈴木克明: “初年次キャリア教育科目における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の向上”, 日本教育工学会論文誌, 第 38 巻, 第 2 号, pp.79-89 (2014)
- (2) 桑原千幸, 喜多敏博, 合田美子, 鈴木克明: “非同期 e ラーニングキャリア教育科目における相互評価学習の実践と進路選択自己効力の変化”, 教育システム情報学会誌, 34(3), pp.238-250 (2017)
- (3) 桑原千幸: “他者との相互作用を重視したキャリア教育科目のデザインのための相互評価学習の試行”, 第 43 回教育システム情報学会全国大会, pp. 43-44 (2018)

表 2 相互評価学習に対する動機づけ

(* $p < .05$ ** $p < .01$)

質問項目	前期匿名群	前期実名群	後期群	分散分析	
	A (N=33)	B (N=38)	C (N=15)	多重比較	
他の学生の 意見を読むこと	面白かった(A)	4.30(0.81)	4.50(0.65)	4.73(0.46)	
	やりがいがあった(R)	4.00(0.61)	4.11(0.56)	4.53(0.64)	* C>A
	自分の考えに影響を与えた(R)	4.33(0.92)	4.13(0.93)	4.40(0.74)	
	相手のためになる評価ができた(C)	4.06(0.79)	4.00(0.57)	4.00(1.00)	
	やってよかった(S)	4.33(0.78)	4.32(0.62)	4.73(0.46)	
	今後もやってみたい(S)	3.91(0.95)	3.89(0.86)	4.67(0.49)	** C>A, C>B
他の学生から 評価されること	面白かった	4.18(0.73)	4.18(0.65)	4.67(0.62)	*
	やりがいがあった	3.94(0.61)	4.24(0.54)	4.47(0.64)	* C>A
	自分の課題の内容に影響を与えた(R)	3.97(0.98)	3.84(0.79)	4.53(0.64)	* C>B
	自分ができたことを認めてもらった(C)	4.03(0.85)	3.87(0.74)	4.33(0.72)	
	やってよかった(S)	4.21(0.74)	4.16(0.72)	4.60(0.63)	
	今後もやってみたい(S)	3.82(0.92)	3.74(0.72)	4.20(0.94)	** C>A, C>B

※各セルは、平均値 (SD) を示す